

南アフリカ為替週報

2021年11月11日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉

(11月4日～11月10日)

USD/ZAR: 14.8675～15.4650

ZAR/JPY: 7.37～7.59 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、予想に反して上昇が先行したものの、週明けに前後して反落、振り返って小幅下落に終わった。ランド堅調の先行に、特段の買い材料があったようには思われなかった。1日投票された南ア統一地方選の結果は、2日までには大勢が判明、4日には最終的な結果が選挙管理委員会から発表された(はず)。投票率の低下は、コロナ禍状況に鑑みればいたし方ないものの、(中央政界における)与党アフリカ民族会議(ANC)の得票率低下、史上初(初めて全人種が投票した1994年の大統領選以来)の50%割れ(46%)を記録したのは、政局の安定、政府の政策執行能力という目線では残念な結果と言えただろう。こうした結果は、おそらく、ランドにとっても悪材料と読めたはずだが、投票日以降ランドはむしろ堅調に推移。予想を織り込む段階で事前に売り込まれたランドが、予想通りの結果に調整的な反発を見たという経緯だったのではなかろうか。南ア地方選が材料として消化されたのに前後するタイミングで、市場の関心は米物価動向に移っていった。10日発表された米10月CPIは、強めの市場予想を明確に上回る前年比+6.2%へと上伸。米物価上昇は、米連銀による利上げ前倒しを予見させ、一元的にはドル押し上げ要因だが、南アのように高金利で対内証券投資を誘導する国にとっては(資金調達をより困難にすることで)二重の意味で悪材料。前後してのランド急落を演出する要因となった。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

| 月日 | GMT | 指標 | 期間 | 発表 | 予想* | 前回 |
|------|------|-------------|-----|---------|-----|---------|
| 11/8 | 6:00 | 総外貨準備高(USD) | 10月 | 57.52bn | | 57.06bn |

〈向こう1週間の見通し〉

(11月11日～11月17日)

USD/ZAR: 15.150～15.650

ZAR/JPY: 7.25～7.50

向こう1週間の南ア・ランド相場は、軟調推移を予想。米物価上昇、米利上げ前倒し観測の高まりは、上述の通りランドには下押し要因と読める。並行して、10日、米物価上昇を受けて金、プラチナなど貴金属(南ア主要輸出産品のひとつ)が大きく水準を切り上げたのは、ランドにとっては下支え/押し上げ要因になるはず。金やプラチナにとっても、米連銀利上げ前倒しは下落要因のはずだが、今般、市場はインフレヘッジ資産としての貴金属により注目したようだ。一方で気になる南ア準備銀による金融政策動向だが、同銀利上げ観測は、年初来ほぼ一貫してくすぶり続け、10月以降、また一段と強まっている。しかし、肝腎の南ア準備銀は慎重な姿勢を崩しておらず、くすぶった利上げ観測は、引き続きくすぶり続けたままだ。ひとつには、同国ではワクチン接種の進捗がはかばかしくなく、何時コロナ禍が拡大、経済活動を停滞させるか予断を許さないこと、また、同銀の物価誘導目標は+3～6%と(他の新興国と比較しても)高めめで、物価上昇を看過するのに、相対的に余裕があることが、同銀の様子見を可能にしているものと考えられる。また、同銀の四半期予想モデル(QPM)が、一貫して鷹派的な試算結果を示していることも、市場を惑わす要因のひとつになっているだろう。同銀が、実際にQPMを参考にして政策決定をすることは、ほとんどない。南ア準備銀利上げが、市場の織り込みよりも先延ばしになる可能性は、南ア国債市場にとっては買い要因と言えるはずだが、ランドにとっては、むしろ重石になる可能性の方が高いのではないか。最後に、11日に発表される南ア中期予算政策声明(MTBPS)だが、これといった注目要因/評価材料に乏しい。ゴドングワナ財務相の陰が薄い事実は、南ア経済にも、ランドにも、おそらく良い影響は与えないのではなかろうか。

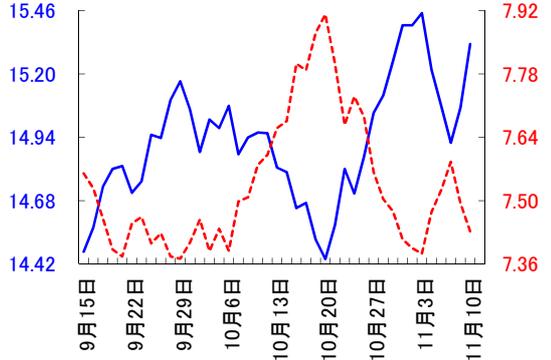
〈向こう1週間に発表予定の主要経済指標等〉

| 月日 | GMT | 指標 | 期間 | 発表 | 予想* | 前回 |
|-------|-------|------------|-----|----|-------|-------|
| 11/11 | 9:30 | 鉱業生産(前年比) | 9月 | | +2.7% | +2.0% |
| | 11:00 | 製造業生産(前年比) | 9月 | | -1.3% | +1.8% |
| 11/17 | 8:00 | CPI(前年比) | 10月 | | | +5.0% |
| | 11:00 | 小売売上高(前年比) | 9月 | | | -1.3% |

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

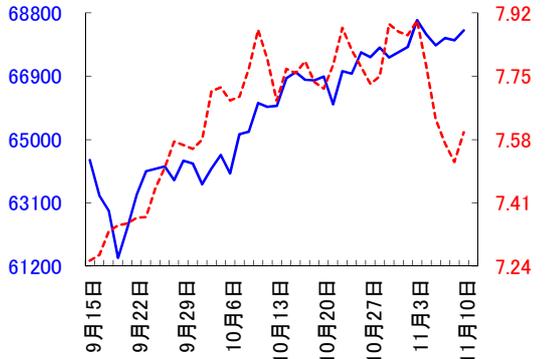
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

| | | |
|-----------------|--------|----------|
| 政策金利(レポ金利) | | 3.50% |
| 長期金利(10年スワップ) | 11月10日 | 7.600% |
| 株価指数(JSE全株) | 11月10日 | 68279.40 |
| 成長率(GDP/前年比) | Q2 | +19.3% |
| 経常収支(ZAR) | Q2 | +343bn |
| 失業率 | Q2 | 34.4% |
| 消費者物価(前年比) | 9月 | +5.0% |
| 小売売上高(前年比) | 8月 | -1.3% |
| 製造業生産(前年比) | 8月 | +1.8% |
| 鉱業生産(前年比) | 8月 | +2.0% |
| 貿易収支(ZAR) | 9月 | +22.2bn |
| 金価格(ロンドン 17:00) | 11月10日 | 1854.90 |

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。